
由無し

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

由無し

【Nコード】

N 6 6 9 3 M

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

褐色の鉄、青白い皮膚、夜のした、僕らの当たり前。

例えば僕の背中の中に

君の背中があつて

後ろだけの温かさに

少しの幸せを知るとする

例えばふざけた言葉の裏に

無闇な悲哀を乗つけたけど

聞こえた優しい声じゃ

どうしても笑えないと知る

君が呟く言葉の全てが

僕だけに向けられたものならば

僕は一生幸せ者だな

そうやって笑って嘘をつける

いい加減

安い温もりに気づいてくれよ

僕たちはお互い

使い捨てライターに縋ってる

例えば僕には君がいて

例えば君には僕がいる

そんな当たり前が続いたとして

僕らの怠惰を誰が知る？

例えば時間が過ぎるのを感じると

僕の必要性を疑いたくなる

最近はひとりですつと

サヨナラの練習ばかりしてる

君といると温かい

君がいれば僕は生きていける

だから本当は言葉なんてどうだっていい

だから言いたい事すらもう忘れた

そろそろ思い出す

夜と公園と静寂と憎悪

手のひらに触れた冷たい壁

僕らは文字に溺れてる

僕たちずっと笑ってばかりだ

君が泣いたのいつだったけ？

例えば僕の背中の中

例えば君の背中の温度

例えば忘れた言いたい事

例えば少しの幸せを知る

思えばずっと笑ってばかりだ

僕が泣いたのいつだっけ？

暗がりの中

絵本でみた星空

点かなくなったライター

やけに冷たい背中

君の吸うタバコの煙が

目に入って痛くて泣いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6693m/>

由無し

2010年10月15日21時20分発行